

E-Pd療法（Elotuzumab+Pomalidomide+Dexamethasone）（1.2サイクル目）

		Day					
薬剤名	用法用量	1	8	15	22	28	
エムプリシティ （Elotuzumab）	10mg/kg 点滴静注 ※1	↓	↓	↓	↓		
ポマリスト （Pomalidomide）	1～4mg 1日1回 経口	 Day1～21					
レナデックス （Dexamethasone）	1回40mg ※2 1日1回 経口	↓	↓	↓	↓		

4週間ごと（ポマリストは3投1休）PD（憎悪）まで

※1 点滴速度はレジメンポイントで

※2 医師の判断により適宜増減

【制吐対策】

軽度に準じる

【Infusion reaction対策】

①Elotuzumabno投与30～90分前	ジフェンヒドラミン25～50mg	静注 or 経口
②Elotuzumabno投与30～90分前	ファモチジン20mg	静注
②Elotuzumabno投与30～90分前	アセトアミノフェン300mg～1000mg	経口

【ポマリスト投与量】

血小板減少、好中球減少による投与量の調節、Grade3～4の副作用が発現した場合は、Grade2以下に回復するまで本剤を休薬し、再開は休薬前の投与量から1mg減量する。再開は患者の状態に応じ判断する。1mg減量した後にふたたび副作用が発現した場合には、本剤の投与を中止する。

【基本事項】

再発または難治性の多発性骨髄腫

【レジメンポイント】

0.5mL/分の投与速度で点滴静注を開始し、患者の忍容性が良好な場合は、患者の状態を観察しながら、投与速度を以下のように段階的に上げることができる。ただし、投与速度は5mL/分を超えないこと。

【相互作用】

CYP1A2やCYP3A4阻害薬との併用により、Pomalidomideの代謝が阻害されると考えられるため注意、また高脂肪食摂取後はAUCやCmaxが低下する。

【主な副作用】

Infusion reaction、妊娠回避の徹底、B型肝炎ウイルスの再活性化、高尿酸血症、白内障、静脈血栓塞栓症、骨髄抑制、感染症、疲労・無力症など、体液貯留、皮膚障害